

1 情勢報告

J A土佐くろしお管内のカンキツ等果樹の勉強会が開催されました



勉強会の様子

7月31日、J A土佐くろしお本所にて、J A土佐くろしお管内のカンキツ等果樹栽培農家を対象に勉強会が開催されました。この勉強会の試みは、初めてであり、参加者は約30名でした。

講師には、果樹試験場の澤田氏を招き、「温暖化が「土佐文旦」の品質に及ぼす影響とその対策」の演題で講演して頂きました。

講演は高度な内容ではありましたが、熱心に聞き入る生産者が多く、講演後には活発な質疑応答が見られ、栽培意欲の高さが伺われました。

今後も振興センターはJ Aと協力して、生産者の技術向上の支援を行って行きます。

集落営農への取り組み



集落座談会

須崎市下郷地区は8月8日、集落営農意向調査結果、並びに関連事業について7月に引き続き集落座談会を開催しました。

意向調査結果では、個人所有農業機械を今後、「更新しない」と「共同利用希望」が約8割、集落営農への取り組みには約6割の方が参加と答えています。その結果を受けて、座談会において集落営農への取り組みを決議しました。

また、会では地域農業推進課の集落営農担当専門技術員を講師に、集落営農への取り組み、関連事業を説明しました。営農組合機械更新積立計画等の具体的な説明があり、同地区の今後の農機具整備計画の参考となりました。

集落自らが動き決定する体制が整いましたので、今後とも振興センターは、須崎市など関係機関と連携して引き続きサポートしていきます。

集落営農リーダー研修会



研修会

須崎農業振興センターでは、集落営農組織のリーダーや関係機関を対象に、組織活動の充実、ステップアップを図るため、集落リーダー研修会を開催しています。7月23日に第2回目として、法人化について農業会議と税理士を招き研修会を行いました。

今後、法人化を視野に入れて取り組む場合の基礎知識を習得して頂くため、任意組織と法人の違い、税制上のメリットとデメリット、社会保障制度などを学び、法人化のイメージをつかんでもらいました。

今後も、振興センターでは農業用機械の更新積立の考え方や、6次産業化の取組など事例紹介の研修会を開催し、組織運営の支援をしていきます。

1 情勢報告

J A津野山GAP勉強会



圃場点検方法の研修



講演会

J A津野山のナス部会は平成14年からISO14001に、また平成20年からは園芸部全体（ナス部会、シシトウ部会、ミョウガ部会）でGAPに取り組み、環境保全型農業に積極的に取り組んでいます。今回、よりGAPの意義を理解し、取組を推進していくため、8月3日にJGAP審査員である（株）農水産IDの藤井淳生氏をお招きし、勉強会を開催しました。

まず、圃場での点検活動方法の改善を図るため、普段の点検活動を見て頂き、アドバイスを受けました。指導の3本柱である「観察、聞き取り、比べる（照合）」という確認の仕方やチェックシート項目の改善点が多々あることがわかりました。

また、生産者や共選員など約80名を対象に、「GAPの現在（いま）と将来（これから）」と題して、講演をして頂きました。作業小屋や農薬の保管の状態をスライドで見ながら、どういう点に気をつけないといけないのか分かりやすく説明を受け、環境保全だけでなく、食品安全、労働安全、経営改善につながる事が理解されました。後日、複数の農家から「GAPに取り組んでいるよ」という声も聞かれ、早速実践されていることが伺えました。今後、産地の取組が一層進むよう点検活動の見直しなどを関係機関と支援していきます。

J A土佐くろしお露地シシトウ部会現地検討会が開催されました



現地検討会の様子

7月23～26日にJ A土佐くろしお露地シシトウ部会の現地検討会が開催されました。露地シシトウ部会には雨よけ栽培と露地栽培があり、今回は雨よけで2ヶ所、露地では5ヶ所で開催されました。

会では、振興センターから今年度の気象や今後の栽培管理についての説明を行いました。また、営農課からは、梅雨明け後にシシトウで問題となってくる病害虫とその対策についての説明が行われました。

生産者からは「今年は天気が悪かった。なかなか育たんかった。」という声も聞かれましたが、会での講習や他の生産者の意見を聞くことで、再び栽培への意欲を燃やしている様子が伺えました。

今後も振興センターではJ Aと協力して生産者の技術力向上の支援を行っていきます。

津野町農産物直販所トマト栽培講習会を開催しました



8月6日に、津野町の農産物直販所の出荷者を対象にトマト栽培講習会を開催し、直販所用ハウスでトマトを栽培している農家9戸が出席しました。

今年は曇雨天が続き果菜類全般に樹勢のコントロールに苦労していますので、これから秋に向けていかに着果させていくかについてトマトの植物生理の基本から誘引のテクニックまで指導しました。参加者からは積極的な質問、意見が出て、直販所出荷への意欲が感じられました。

農業振興センターでは今後も、直販所出荷農家に対してこのような基幹品目の栽培指導とともに、安心・安全な農産物生産の推進を行っていきます。

